

論文名：殺菌および抗炎症作用を有する歯磨剤ジェルコート F の  
歯周治療後残存歯周ポケットに対する効果

新潟大学大学院医歯学総合研究科

氏名 岡田 崇之

(以下要約を記入する)

【研究目的】

歯周炎に対しスケーリング・ルートプレーニングを含む動的治療を行った後に残存したポケットに歯周病原細菌または炎症の継続が認められる場合、さらなる進行のリスクが高い。セルフケアとしてブラッシングに薬剤を含む歯磨剤を併用し殺菌・消炎を図ることは歯周炎の進行抑制に効果的と考えられる。歯磨剤ジェルコート F<sup>®</sup>は 0.05%塩酸クロルヘキシジン, β-グリチルレチン酸, フッ化ナトリウム, ポリリン酸ナトリウムを含有している。今回歯周治療後の残存歯周ポケットに対するジェルコート F<sup>®</sup>の効果を調べた。

【材料と方法】

対象は 20 歯以上を有する男女で慢性歯周炎に対しスケーリング・ルートプレーニングを含む動的治療終了後 1 ヶ月以上経過し, 2 歯以上に 6~7mm の残存ポケットを有する 20 名とした。無作為化二重盲検法にて 2 群に分け実験群はジェルコート F<sup>®</sup>を, コントロール群は塩酸クロルヘキシジン, β-グリチルレチン酸を除いたコントロール剤を使用した。残存ポケットを有する 1 歯を歯肉溝滲出液 (GCF), 他の 1 歯を細菌検査対象とし, GCF 中のアスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ (AST), アラニンアミノトランスフェラーゼ (ALT), 縁下プラーク中の *Porphyromonas gingivalis*, *Prevotella intermedia*, *Tannerella forsythia* および *Treponema denticola* を測定した。歯周病検査を行った 1 週間後 (0w) に GCF と縁下プラークを採取し, 次いでポケット内にジェルを注入した。患者は毎日ジェルを使用してブラッシングを行い, 就寝前にリテーナーにてジェルを 10 分間適用した。4 週間後, 同様の検査を行い結果を解析した。

【成績】

実験群, コントロール群とも有害事象は認められなかった。ベースラインにおいて年齢, 男女比, ポケット深さ, 細菌レベル, GCF 成分の差はなかった。術前術後比較では実験群のみ対象歯の Plaque Index と Gingival Index (GI) が減少した。それ以外に有意な変化はなかった。また, 術前術後の変化量に群間差はなかった。年齢, 性別の影響を調整した線形回帰分析では GI のみジェルコート F<sup>®</sup>の効果が認められた。

【考察および結論】

リテーナーとブラッシングを併用してジェルコート F<sup>®</sup>を 4 週間使用した結果, 歯周治療後の残存ポケットの歯周病原細菌レベルおよび歯肉溝滲出液成分に有意な変化は認められなかった。しかし臨床所見における縁上プラークおよび歯肉の炎症を減少させる可能性が示唆された。